

佐久市新品目導入試験事業

令和6年度事業報告書



佐久市営農支援センター

1 新品目導入試験事業の目的と令和6年度の事業の経過について

当事業は、新品目の農作物や新技術について、佐久市の気候や風土に合い、かつ経済性を発揮できるかの試験をし、適合する品目等において農業者へ普及を図るために、当佐久市営農支援センターが試験業務を受託し、佐久市跡部において事業を進めています。

本年度は本事業の受託14年目となり、引き続き「収益性の高い転作作物の推進と新技術の導入・実証」「新たな佐久市ブランド製品の育成」について、より普及拡大を目的として取り組みました。

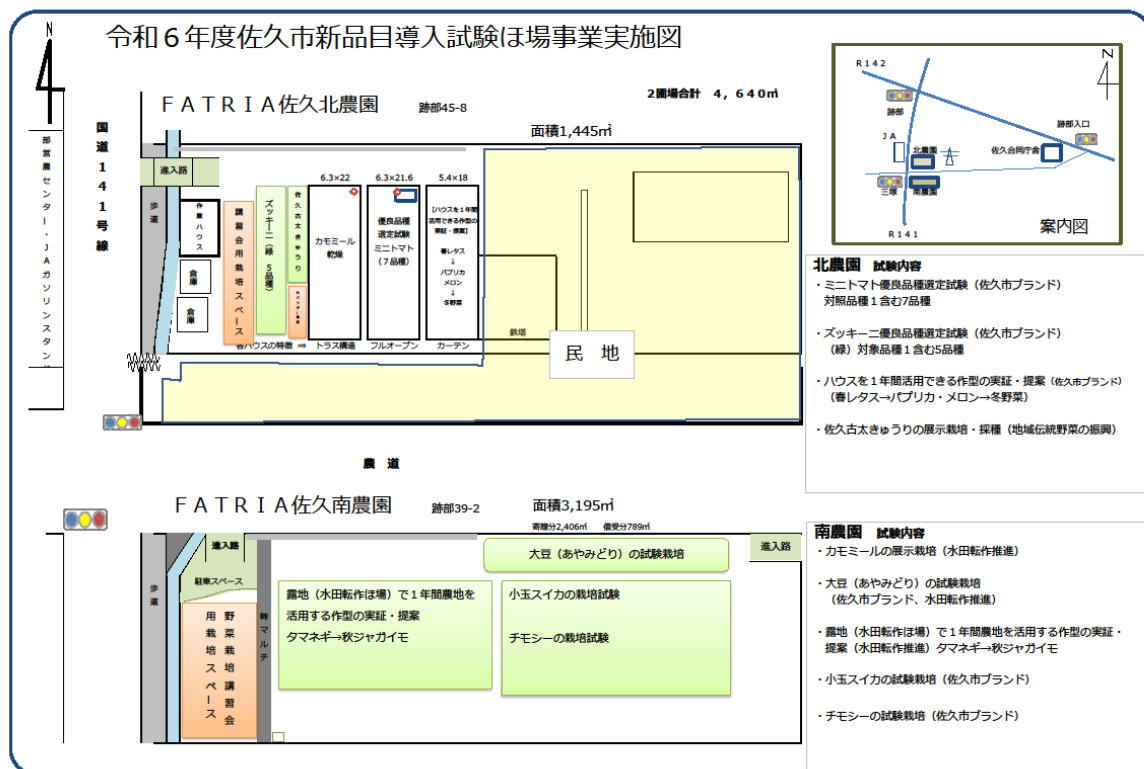
目標の1つ目である「収益性の高い転作作物の推進と新技術の導入・実証」については、カモミールや大豆（あやみどり）、などの作物を実証することで、付加価値が高く比較的取り組みやすい作物などについて検討を重ねてまいりました。

2つ目の目標として、「新たな佐久市ブランド品の育成」では、チモシーによる栽培適性試験を実施。佐久市の気候を生かした、「佐久市らしい」農産物の実証栽培試験を行ってまいりました。

地域の主力農産物であるミニトマト・ズッキーニの優良品種選定試験の実施、保存会が立ち上がった佐久古太きゅうりの展示栽培、年間を通じたハウスを活用できる作型の試験を実施しました。

試験栽培で終わりとならぬよう、消費者の嗜好に合う販売を見据えた取組の一環として、野菜栽培講習会による生産者拡大を図る営農指導やカモミール研究会の総会に参加し現状問題等の現場と意見交換を実施しました。

2 令和6年度新品目導入試験事業の概要



3 令和6年度に取り組んだ試験の内容について

（1）「収益性の高い転作作物の実証と新技術の導入試験」

ア カモミール展示栽培

令和5年12月～令和6年6月

イ チモシーの適正栽培試験

10月～栽培中

ウ 大豆（あやみどり）の栽培試験及び種子生産

6月～12月

エ 露地（水田転作ほ場）で1年間農地を活用できる作型試験

（ア）タマネギ収穫後の秋収穫のジャガイモ生産

令和5年10月～令和6年6月（タマネギ）→9月～11月（ジャガイモ）

（イ）7年産タマネギ播種

10月～栽培中

(2) 「新たな佐久市ブランド品の育成」

ア ミニトマト優良品種選定試験

3月～11月

イ ズッキーニ優良品種選定試験

5月～7月

7月～10月

(3) 「ハウスを1年間活用できる作型の実証・提案」

ア 春レタス

2月～4月

イ パプリカ・メロン

5月～10月

ウ ホウレンソウ・ビタミンナ・チンゲン菜 ほか

11月～2月

(4) 「かぼちゃ食味選定」

11月

(5) 「野菜栽培講習会における普及推進活動」

4月～2月

カモミール試験栽培

1 試験について

カモミールを転作作物とし推進するため、平成23年度から佐久市の気候に合う栽培形態や省力化を検討する試験を実施している。同時期に発足した、JA佐久浅間カモミール研究会の7名の生産者で、毎年3,000kg程度の出荷がなされている状況となっているが、今後、更なる生産者を増やしていきたい。そこで、令和6年度は、展示栽培を行い、普及事業を中心に実施した。

2 展示栽培（普及事業）について

カモミール刈り取り体験会

- ・日 時 5月29日（水曜）午前10時00分～午前11時40分
- ・会 場 佐久市新品目導入試験ほ場
- ・参加者 17名
- ・作業内容 刈り取り、乾燥作業
- ・座学の実施 栽培方法や市出荷方法について
- ・その他 abn長野朝日放送、佐久CATV、信濃毎日新聞、佐久市民新聞より取材があった。



㊦ 刈取り体験の様子



はぜ掛け体験 ㊦

3 推進活動について

佐久浅間農協カモミール研究会総会

（1）令和6年度実績

1月中旬は平均気温が高く、干ばつであった。2月は上旬と、下旬に降雪が多かったが、前段の干ばつ解消には至らず、気温も平均並みであった。3月中旬からは気温も急激に上がり、3月下旬から4月上旬に平年を超える降水量により、土壌水分もあり順調に生育した。5月以降、平均気温を上回り、降雨も適宜にあり6月上旬まで生育は順調であった。この時期までに刈取りが終了していたものは乾燥が進んだ。

- ・集荷について 7月、8月、10月
- ・引取日 10月31日、11月6日
- ・総集荷数量 2,110kg (前年2,405kg) 【昨年度減少要因として、2名の生産者減少】

チモシーの栽培試験

1 栽培目的

栃木県の業者から現在群馬県でペット用牧草の栽培をしているが、高温障害による影響で葉っぱの黄色化が多発している。その中で佐久市の冷涼な気候化での栽培試験を行う。

2 栽培スケジュール

チモシー：多年草

：生育温度-35～32℃ 草丈：70～80cm

は種時期 10月25日～

施肥

収穫時期 7月（一番草）

8月（二番草）

雑草対策 9月～11月（収穫後雑草が混入ないようにハンマーモア等で刈込）

※多年草であり分けつしにくいいため、2年目以降には種しなくてよい



① チモシー種まきの様子



チモシーの種 ②

3 今後の展開

佐久市で栽培、出荷が可能となれば、新たな転作推進品目となるほか、高収益作物としての推進を図りふるさと納税等の品目とすることができる。現在群馬県邑楽町では、ふるさと納税の品目となっている。

また、人当たりのコストも低いため遊休農地の解消、耕作放棄地の解消にもつながるため、来年度へ継続して試験を進行中。

大豆（あやみどり）の試験栽培

1 試験目的

転作の奨励品種である大豆（あやみどり）について、種子の供給量が少なく生産拡大が図りにくく、気候変動による異常気象や温暖化による収穫量の不安定の対策として、より安定的な収量確保の試験を行う。

2 試験方法

（1）試験方法

ア 供試品目（品種）

あやみどり

イ 栽培管理・施肥

（ア）栽培面積 50m²

（イ）栽培密度 畝間70cm、株間20cm

（ウ）元肥（10a当たり換算）

炭酸苦土石灰150kg、大豆64286kg、ペレット堆肥1.2t

（エ）栽培経過

定植日 6月17日

収穫日 11月11日

高畝は種機による栽培

高畝は種による、排水性の向上及び温度の安定性を調べる。



	品種名	収量	10a当たり収量	は種方法
R4	あやみどり	8.2kg	164kg	
R5	あやみどり	7.7kg	154kg	
R6	あやみどり	5.7kg	114kg	高畝



品種名	開 期	成 熟 期	主 茎 長 (cm)	主 茎 節 数	最下 着 莢 節 位 高 (cm)	生育中の障害				収 量	
						倒 伏	蔓 化	刈 込	青 立	子 実 重	標 準 比
	(月 日)									(kg/a)	(%)
あやみどり	8.03	10.02	78	17.9	29	微	微	無	微	35.8	106
信濃青豆	7.31	10.13	78	16.1	17	微	少	無	少	33.8	100

農林水産省参照～あやみどり栽培適性試験

3 考 察

今回の令和6年度試験では、「気候変動による異常気象や温暖化による収穫量の不安定の対策として、より安定的な収量確保」の試験を行ったが、過去三年と比較しても一番収量の低い結果となった。原因として、3年以上も同じ場所で栽培しているため連作障害が考えられる。また、昨年に比べて粒ぞろいが悪く、選別の基準値に満たさないものが多くみられた。

大豆の連作障害は、土壌の栄養バランスの崩れや病害虫の蓄積、土壌の物理的劣化によって引き起こされ、生育不良や収量の低下が引き起こされる。このことより、今年度は最低限の種子しか確保できなかった。

来年度について、試験場所を変え高畝は種機による収量の安定確保について取組を行いたい。



👉 今年度収穫の大豆



露地（水田転作ほ場）で1年間農地を活用する作型の実証・提案

1 試験目的

主として直売所に出荷している農業者をターゲットに、水田転作ほ場でも栽培できる品目を用いた新しい作型の提案を行い、栽培規模の拡大を図る。また、転作を検討する農業者に対する判断材料の一つとしてデータを取得する。

令和6年度については、令和5年度に播種をしたタマネギの苗を定植し、夏の収穫直後に秋じゃがいもの定植を試験。

2 試験方法

カモミール刈り取り体験会

- ・日 時 5月29日（水曜）午前10時00分～午前11時40分
- ・会 場 佐久市新品目導入試験ほ場
- ・参加者 17名
- ・作業内容 刈り取り、乾燥作業
- ・座学の実施 栽培方法や市出荷方法について
- ・その他 abn長野朝日放送、佐久CATV、信濃毎日新聞、佐久市民新聞より取材があった。

品種	数量	重量	1個平均	糖度平均
ネオアース	30	8.4kg	280g	11.5
七宝甘70	30	9.0kg	300g	8

ネオアース	
2L	
L	23
M	6
S	1

七宝甘	
2L	3
L	23
M	4
S	



栽培試験中のタマネギ

(2) 試験結果(秋ジャガイモ)

ア 供試品目(品種)

デジマ 種芋3kg

イ 栽培管理・施肥

(ア) 栽培面積 19m²

(イ) 栽培密度 畝間60cm、株間30cm

(ウ) 元肥(10a当たり換算)

化成肥料1kg、堆肥1t

(エ) 栽培経過

播種日 8月19日

収穫日 11月11日

品種 収量
デジマ 53kg

10a当たり収量
2,790kg



👉 栽培試験中のじゃがいも

国内農業におけるばれいしょの概要

	作付面積 (ha)	単収 (Kg/10a)
全 国	70,900	3,070
北 海 道	47,100	3,580
都 府 県	23,800	2,060
鹿 児 島	4,510	2,020
長 崎	3,190	2,560
千 葉	1,140	2,610
茨 城	1,640	3,020

農林水産省参照～全国のじゃがいも平均収量



👉 収穫後のジャガイモ

3 考 察

タマネギについて、ネオアースは特に生食での甘みが強く、フレッシュな用途に最適な品種のため七宝甘70とは糖度の違いが顕著に表れた。規格について、七宝甘70は安定的かつ重量のある素体が多く、比較的ネオアースよりも大きいサイズが多く見られた。

じゃがいもについて、新たに露地(水田転作ほ場)で1年間農地を活用する作型の実証・提案として試験を行ったが収量が非常に高く、全国的な生産地と比較しても水田ほ場としてかなりの収量が得られた。

次年度課題として、タマネギ、じゃがいものいずれも収量及び品質の良い物を生産することができたが、本試験目的である「タマネギの苗を定植し、夏の収穫直後に秋じゃがいもの定植」について夏場にて種芋の購入ができなかったため、直後での播種状況の確認ができなかった。

ミニトマトの品種選定試験

1 試験目的

平成24年度より継続して実施している事業であり、佐久市内の有力品種であるサンチェリーピュアより耐病性に優れ、なおかつ食味や樹勢、出荷規格などにおいて良い品種を探すために、対照品種のサンチェリーピュアを含む7品種で試験を実施。

2 試験方法

ア 供試品目（品種）

サンチェリーピュア（対照）①ランゼ、②恋味アミューズ、③リリカ、④ルージュジャポネーゼ、⑤A21L517、⑥ノエルジェム 各×2株

イ 栽培管理・施肥

（ア）反別 1a

（イ）栽培密度 畝間95cm、株間40cm

（ウ）元肥（10a当たり換算）

特肥いきいき70kg、ジャンプ有機36kg、炭酸苦土石灰63kg、

なたね粕27kg、FTE4kg、堆肥（もちづき有機）1,818kg

追肥（10a当たり換算）

トミーブラック液肥272kg

（エ）栽培経過

定植日 5月14日

収穫期 7月12日～11月20日

品種名	一般特性	収量性	耐病性	商品性	総合	次年度再検討	次年度実用	糖度(%)
(対照)サンチェリーピュア	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)			7.78
ランゼ	B	B	B	A	B		○	8.74
恋味アミューズ	B	B	B	B	B			8.82
リリカ	B	B	B	A	B			9.48
ルージュジャポネーゼ	B	B	B	B	B			9.94
A21L517	A	B	B	C	B			8.00
ノエルジェム	B	C	B	A	B			10.74

※判定基準 対照品種と比較して【A：優れる B:同等 C:劣る】の相対評価を記入



栽培中のミニトマト



3 各品種の考察

(1) ランゼ

対象品種と比較して光沢に差はあるものの、品質に大きな影響はない。果形は丸く、果実の大きさや着果数は対照品種並みで、食後に皮が残らず、糖度は対象品種より高い。後半も草勢が保たれ、安定して結実するため、育成環境の安定性がうかがえる。

(2) 恋味アミューズ

前半の草勢は強く、玉が大きい。初期段階では果形が縦長で果肉は固い。節間が短く、果房が長いため、低段では果実が地面に接触する可能性があり、病害虫のリスクが高まる。適切な管理が求められる。

(3) リリカ

光沢は対象品種より無いが、問題の無いレベル。果形丸く、果実は若干小さめ、酸味少なく糖度は試験品種中上位クラスだが測定値程の甘味を感じない。条件により日焼け果の発生が懸念される。葉が小さく草勢はおとなしいが後半草勢が弱くなっていた。

(4) ルージュジャポネーゼ

初期の結果数は多く、中期以降草勢弱まり小果が目立つ。初期にトガリ果が多く、後半でも真円にならない（デーツ型に近い）。くぼみ果でありグリーンバックの発生が見られた。艶はあるものの色味は若干薄く糖度が高く食味は良いものとなった。

(5) A21L517

シーズン通して草勢が強い。節間が短く誘引作業にはメリットがある。花数が多く、着果はますますである。ただし摘みは対象品種より劣っていた。果皮が厚く、食べたとき皮が残る印象となった。

(6) ノエルジェム

糖度が高く、特に前半の食味が非常に良好。ただし、花数は多いものの、花とびの発生が見られ、果実はやや小ぶりで、摘みが悪いという点が課題として挙げられる。



品種選定中のミニトマト

ズッキーニの品種選定試験

1 試験目的

平成24年度より継続して実施している事業であり、佐久市内の有力品目であるズッキーニ秋季収穫品種について、樹勢や出荷規格などにおいて良いものを探すために対照品種のグリーンポート2号を含む5品種での試験を実施。

2 試験方法

(1) 試験結果

ア 供試品目（品種）

グリーンポート2号（対照）①試行S8、②TSX-750Z、③ケフレン、④TZ-G4
各×7株

イ 栽培管理・施肥

（ア）反別 0.8a

（イ）栽培密度 畝間90cm、株間80cm

（ウ）元肥（10a当たり換算）

さくあさま野菜1号80kg、炭酸苦土石灰80kg、
ようりん27kg、堆肥（もちづき有機）1,200kg

追肥（10a当たり換算）

さくあさま野菜1号20kg

（エ）栽培経過

定植日 7月30日

収穫期 9月2日～10月24日・



品種名	一般特性	収量性	耐病性	商品性	総合	次年度再検討	次年度実用
グリーンポート2号（対照）	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)		
試行S8	B	B	B	B	B		
TSX-750Z	B	A	B	B	B		
ケフレン	B	B	B	B	A	○	
TZ-G4	B	B	B	B	B		

※判定基準 対照品種と比較して【A：優れる B:同等 C:劣る】の相対評価を記入

3 各品種の考察

(1) 試行S8

草勢が強く、節間が中程度の長さで倒伏しにくい特性。果実の形状も良好で、曲がりが少なく、後半まで安定した収穫が可能であり、収穫量は対照品種と同程度であった。

(2) TSX-750Z

果実は濃緑で艶があり、細めでありながら12～13本詰め2kg箱に収められるサイズ。若干の曲がりが見られるが、等級に大きな影響はなく、節間が広めのため収穫がしやすい。今回の試験では、収量が最も多い品種であった。

(3) ケフレン

節間が短く、草勢は強め。終盤まで倒伏しないので、対象品種以上の曲がりが少ない果実が収穫できる。またヘタが短く鋏が入り難い品種であった。

(4) TZ-G4

初期の果実は太目であったが、後半草勢が弱まった。節間が短く鋏を入れにくい。また雌花の発生が多い反面、雄花の発生が悪く、未授精果となったが気温、土壌条件による影響も考えられる。



☞ 試験栽培中のズッキーニ

品種選定中のズッキーニ ☞



ハウスを1年間活用できる作型の実証・提案

1 試験目的

主として直売所に出荷している農業者をターゲットに、「1年間ハウスを活用し続けるモデル」として、新しい作型の提案を行う。これにより、野菜栽培に取り組む農業者に新しい品目の選択肢を広げ、栽培規模の拡大を図る。

市内で栽培されているパプリカのハウスを想定し、パプリカの前作に春レタスを、後作として冬野菜（ハウレンソウ・コマツナ）を栽培する。

2 施設環境

- ・ハウス内張には多層断熱被覆資材を使用し、防寒対策を施す。
- ・環境制御システムにより自動で外張及び内張を開閉することで温度管理を行う。

3 春レタス

- ・ハウスを活用した春レタス栽培において、播種時期や栽培管理方法の違いが収量および品質に与える影響を明らかにし、最適な栽培技術確立することを目的とする。
- ・ハウス内での春レタスの早期定植・育苗技術の確立を通じて、露地栽培に先駆けた「早期出荷」及び不織布による更なる「早期出荷」を可能にし、市場販売価値の向上を図る。
- ・春季におけるハウス内の温度管理が春レタスの生育・収穫時期に及ぼす影響を評価し、加温の必要性やコストとのバランスを検証する。

（1）試験方法

ア 供試品目（品種）

サニーレタス（キュアレット2号）、玉レタス（ウィザード）

イ 栽培管理・施肥

（ア）栽培面積50㎡（サニーレタス25㎡、玉レタス25㎡）

（イ）栽植密度 畝間75cm、株間30cm（ちどり3条）

（ウ）元肥（10a当たり換算）

もちづき有機2.5t、さくあさま野菜1号166kg、炭酸苦土石灰166kg・

（エ）栽培経過

定植日 2月19日

収穫期 4月4日～4月26日



📌 試験栽培中のレタス
とサニーレタス

(2) 収量調査

サニーレタス(キュアレット2号)

収穫日	規格外	M	L	L L	合計	不織布	定植後
	200g以下	200g～250g以下	250g～300g以下	300g～			
4月4日	23	6			29	有	45
4月8日	2	18	1	1	22	有	49
4月11日	1	13	8	1	23	無	52
4月15日		1	6	2	9	無	56
合計	26	38	15	4	83		

玉レタス(ウィザード)

収穫日	規格外	S	M	L	合計	不織布	定植後
	350g以下	350g～450g以下	450g～600g以下	600g～700g以下			
4月15日		5	11		16	有	56
4月24日		4	15	9	28	有	65
4月26日			6	9	15	無	67
合計	0	9	32	18	59		

・サニーレタス収量

1aあたり収穫量33玉、一玉あたり平均重量230g

(不織布あり)

1aあたり収穫量20玉、一玉あたり平均重量215g

(不織布なし)

1aあたり収穫量13玉、一玉あたり平均重量235g

・玉レタス収量

1aあたり収穫量24玉、一玉あたり平均重量544g

(不織布あり)

1aあたり収穫量20玉、一玉あたり平均重量525g

(不織布なし)

1aあたり収穫量6玉、一玉あたり平均重量600g

(3) 考 察

今回の試験では、ハウスを活用した春レタスの周年栽培体系への導入可能性について検討した。その結果、2月定植を行い、4月初旬からの収穫が可能となったことで、露地栽培に先駆けた「早期出荷」及び不織布による更なる「早期出荷」が確認された。

これにより、市場において高単価での販売が可能となり、優位性が確認された。生育においては、ハウス内温度が昼夜ともに安定していたことで、草勢も良好に保たれ、形状・葉色ともに高品質なレタスが得られた。また不織布をかけることによる早期の出荷が可能になるのと同時に不織布がないものと比べ平均重量の低下がみられた。不織布のないものについては総平均重量に比べても平均重量が重い傾向がみられた。



☞ 試験栽培中のサニーレタス



試験栽培中のレタス ☞

ハウスを1年間活用できる作型の実証・提案

4 パプリカ

- ・佐久市は、パプリカの栽培が盛んな地域として知られています。特に、佐久市周辺の温暖な気候や豊かな土壌がパプリカの栽培に適しており、地元の特産品として人気があります。
- ・今回の試験では、第一分枝を2本仕立てし、麻ひもにて誘引し風通しの確保を行い、パプリカ全体の日当たりの確保及び出荷を行うためのパプリカ全体の安定した色付きを確認する。

(1) 試験方法

ア 供試品目(品種)

パプリカSWEET PEPPER(赤色系8本、黄色系8本、オレンジ系4本)

イ 栽培管理・施肥

(ア) 栽培面積 10m²

(イ) 栽植密度 畝間80cm、株間75cm

(ウ) 元肥(10a当たり換算)

サンライム100kg、さくあさま野菜1号100kg、もちづき有機1.5t

(エ) 栽培経過

定植日 5月21日 整枝及び誘引 6月27日～

収穫期 8月8日～10月16日

(2) 出荷可否収量調査

赤色	出荷
可	122
否	19

黄色	出荷
可	97
否	31

オレンジ	出荷
可	55
否	13

総数	出荷
可	274
否	63



👉 試験栽培中のパプリカ

(3) 考 察

着果について、二重被覆ハウスでの栽培においても着果率の低減は見受けられなかった。

色づきの不均一性について、水分管理や肥料施肥の影響により色づきが間に合わず成長が確認された。特に黄色系については、緑色のままとなるものが多く見受けられた。

2本仕立てによる効果として、栽植密度のスペースが確保できるため、安定的な色づきが見込まれた。令和7年度では、2本仕立てと4本仕立てによる色づきの比較を行う。



5 メロン

- ・メロンの栽培適性地として日中と夜間の寒暖差が大きい土地が挙げられる。佐久市は、標高が高く山々に囲まれた冷涼な地域でありながら晴天率が高いため日照時間が長く日中との寒暖差がある。

市内では、現在メロンの生産者が少ないことから、販売を行うことで市場価値の高い作物を生産し農業者への新たな品目の推進を図る。

- ・今回の試験では、収穫したメロンの重量や糖度を計測し生産数量の確保及びより市場価値の高いものの生産を確認する。

(1) 試験方法

ア 供試品目(品種)

パナメロン(青肉系) 6本、マリアージュ(赤肉系) 7本

イ 栽培管理・施肥

(ア) 栽培面積 10m²

(イ) 栽植密度 畝間80cm、株間75cm

(ウ) 元肥(10a当たり換算)

サンライム100kg、ジャンプ有機100kg、もちづき有機1.5t、油粕100kg

(エ) 栽培経過

定植日 5月28日

収穫期 8月8日～10月16日



(2) 検査まとめ

パナメロン		
	重量	糖度
1	2.1kg	15.7%
2	2.6kg	15.3%
3	2.4kg	14.0%
4	2.2kg	15.3%
5	3.0kg	14.9%
6	1.4kg	16.0%
7	2.7kg	14.1%
8	2.0kg	16.3%
9	2.2kg	16.8%
10	2.6kg	14.3%

平均重量	平均糖度
2.3kg	15.3%

マリアージュ		
	重量	糖度
1	2.5kg	17.4%
2	2.6kg	16.9%
3	3.1kg	15.5%
4	2.2kg	16.3%
5	1.9kg	17.2%
6	1.6kg	16.1%
7	2.3kg	17.7%
8	2.7kg	14.7%
9	1.9kg	17.0%
10	2.5kg	16.6%

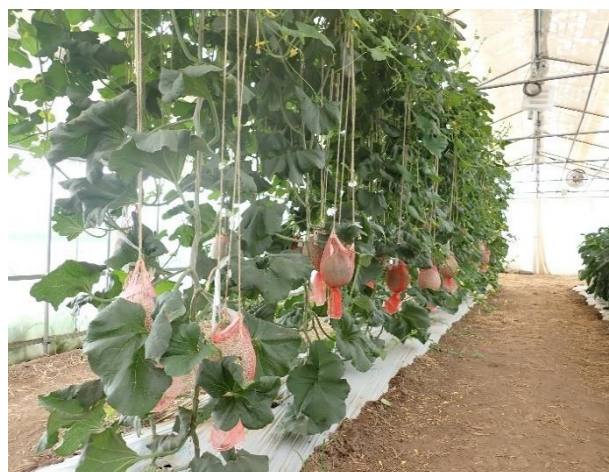
平均重量	平均糖度
2.3kg	16.5%



(3) 考察(結果)

メロンの平均糖度について平均14%という中で青肉系、赤肉系ともに水準を超えた数値が得られた。これは収穫期から約2週間程度前に水を止めたことによる要因とメロンを2本仕立てでつるした際に一つの子づるに2つの玉を付けることで糖度のより高いものを生産した。

一部収穫期よりも前に玉が割れてしまった。原因として灌水システムでの管理のため多くの水分を吸収したことが考えられる。



ハウスを1年間活用できる作型の実証・提案

6 冬野菜

市内の直売所等においては、冬期も地元産の野菜に対する顧客の需要はあるが、冬期は野菜の生産にかかるコストが上がってしまうため品薄の状態となっている。その中で、冬野菜7品目をトンネル状に不織布で覆い無加温栽培し生産コストのかからない作物を調査する。

(1) 試験方法

ア 供試品目(品種)

①ほうれん草、②ツケナビタミン菜、③チンゲンサイ、④大葉高菜、⑤ちぢみ小松菜 ⑥小松菜あっちゃんG、⑦小松菜秋冬のエース

イ 栽培管理・施肥

(ア) 6㎡ 3列ずつ

(イ) 栽培密度 株間15cm、畝間75cm(ちどり3条)

(ウ) 元肥(10a当たり換算)

化成肥料100kg、炭酸苦土石灰100kg、もちづき有機2t

(エ) 栽培経過

播種日 11月20日

収穫期 令和7年2月 4日 ~ 2月 7日

(2) 生育調査

冬野菜発芽率調査

品 目	発芽率(%)
①ほうれん草	95
②ツケナビタミン菜	99
③チンゲンサイ	89
④大葉高菜	96
⑤ちぢみ小松菜	69
⑥小松菜あっちゃんG	97
⑦小松菜秋冬のエース	98



生育調査(は種から30日後の状況) (cm)

品 目	草 丈	葉 長
①ほうれん草	8	8.5
②ツケナビタミン菜	7	7.5
③チンゲンサイ	8	7
④大葉高菜	7	7.5
⑤ちぢみ小松菜	7	7
⑥小松菜あっちゃんG	8	8
⑦小松菜秋冬のエース	7	8.5



生育調査（は種から50日後の状況）（cm）

品 目	草 丈	葉 長
①ほうれん草	12	12
②ツケナビタミン菜	12	16
③チンゲンサイ	12	14
④大葉高菜	10	13
⑤ちぢみ小松菜	11	13.5
⑥小松菜あっちゃんG	10	14
⑦小松菜秋冬のエース	12	13.5



生育調査（は種から70日後の状況）（cm）

品 目	草 丈	葉 長
①ほうれん草	20	24
②ツケナビタミン菜	23	27
③チンゲンサイ	18	18
④大葉高菜	20	25
⑤ちぢみ小松菜	18	21
⑥小松菜あっちゃんG	20	27
⑦小松菜秋冬のエース	22	25



（3） 考 察

二重被膜ハウスによる栽培環境にて、防寒性能が高いことに加え、ビニールトンネルによる不織布を被せることで、70日程度での収穫が可能となった。

令和4年度に同様の冬野菜を試験した結果として、不織布の無い状態での栽培をおこなった結果、収穫まで90日程度かかるという結果となったことが分かっている。

ハウスを1年間活用できる作型の実証・提案として、90日程度かかってしまうとレタスの栽培に間に合わないことから無加温不織布による促成栽培により低コスト化が確認できた。

「かぼちゃ食味比べ」ブースについて

1 目的

今年度、試験圃場で栽培した2品種（「ジェジェJ」と「夢浪漫」）を来場者に食べ比べてもらい、その食味を評価してもらうことで、一般消費者がより好む品種を探る。

2 評価方法

＜評価基準＞

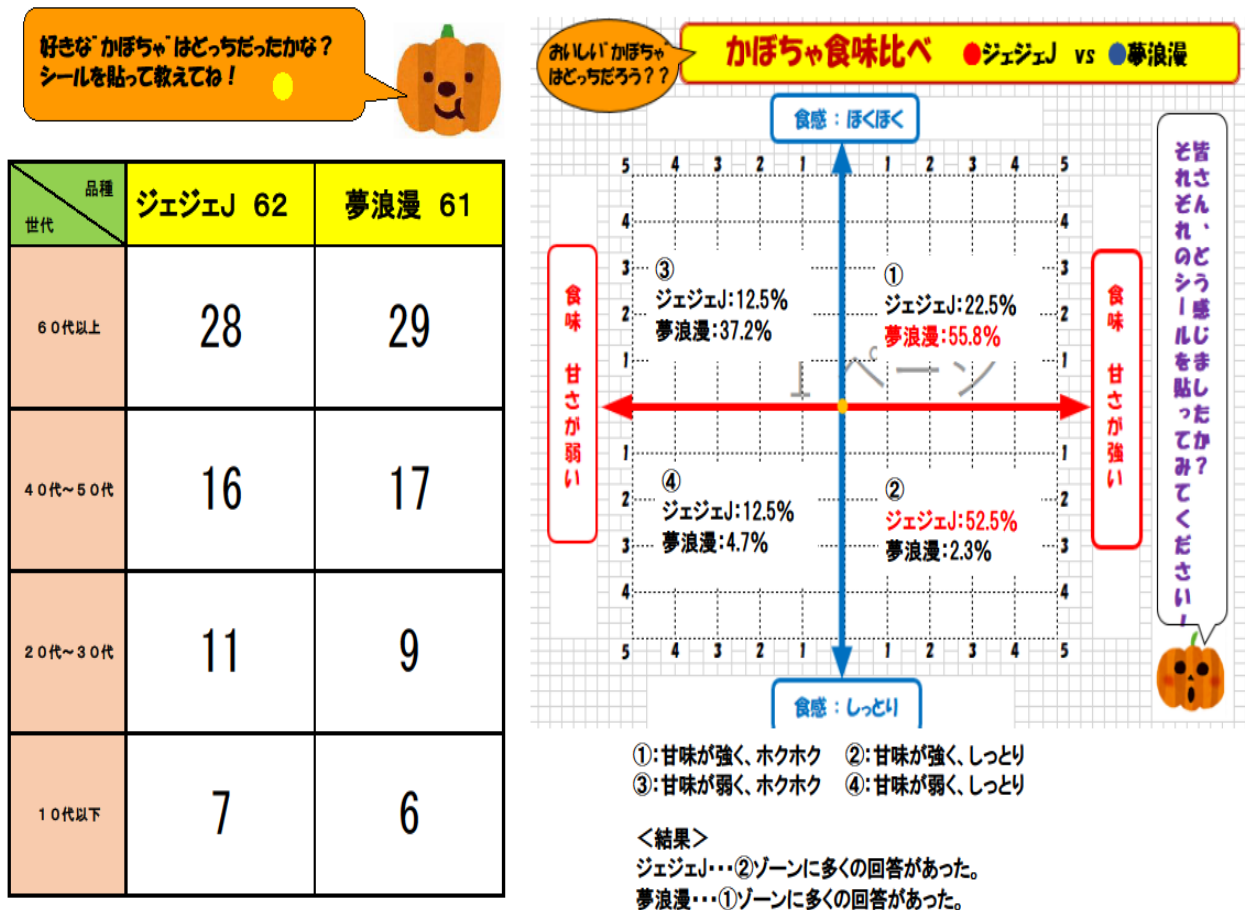
ホクレン農業総合研究所 営農支援センターによるアグリポート（広報紙）に掲載された方法・項目に準じて行う。

＜調理方法＞

平均的な一果重および固形分を示した果実を100℃で15分間蒸し煮する方法。

＜評価項目＞

- ①粉質【ほくほく（高い）⇔しっとり（低い）】
- ②甘味【強い⇔弱い】



3 考察（結果）

夢浪漫は、甘味が弱いと回答する人もいたり、ジェジェJはホクホクであるとの回答もあったため、同品種でも個体差があったと思われる。聞き取りをした中では、どちらの品種も販売場所や種の入手方法を聞かれることがあり、どちらも美味しいという印象を与えたものである。

結論としては、個人の好みによってどちらも好かれる食味であり、総じて両方とも美味しい品種であると言える。

猿楽君設置試験について

1 目的

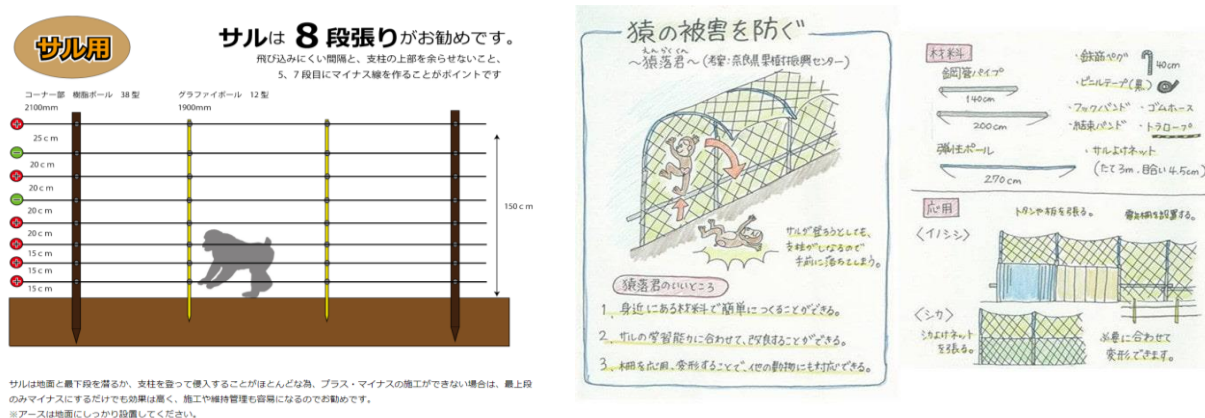
望月地域にて二ホンザルによる農業被害が近年増加しており、農作物の被害防止のため試験的に猿楽君を設置し、防除試験を行う。

2 設置方法

設置場所 佐久市協和3315-1、3315-2、3315-3（本地面積2395㎡ 作付面積1944㎡） 作付作物 ブッキーニ

ほ場全体を囲うように鋼管パイプを2メートル間隔に設置し、パイプに弾性ボールを差し込む。下記の添付図のとおり3段目（地上から45cm）あたりに鋼管パイプを設置し、しなりの部分を作る。

サルよけネットを鋼管パイプにビニールテープと結束バンドで接着し固定する。地面とネットの間からの侵入を防ぐため、トラロープをネットと地面に這わせて鉄筋ペグにて固定。



設置前



設置後

3 結果

・サル被害について

猿楽君設置ほ場には、一度入られた痕跡がありどのようにして入ったかは不明。またほ場ではブッキーニを栽培していたため、サルが好んで食べるものではないこともあるのか、その後サルが入ることはなかった。

・猿楽君の効果について

サルのエサとなるものを栽培してはいなかったが、頻々に入ってはいないことから効果はみられる。別の大豆を作付けしていたほ場ではシカの食害にあった。

・まとめ

サルに対しての効果はみられるが、シカについては侵入されてしまったため、シカに入られないように別の対策を講じる必要がある。

野菜栽培講習会による普及推進活動

直売所等に出荷できる野菜農家を育成するため、栽培技術に関する講習会を実施。

講習会日程

回数	実施日	内容
1	4月16日(火)	〈座学〉 ・ 苗の選び方と遅霜対策 ・ 農作業安全
		〈実技〉 ・ レタス、葉物の定植、播種 ・ 施肥、マルチはりのやり方
2	5月14日(火)	〈座学〉 ・ ブッキーニ、ミニトマト、ピーマンの栽培管理方法
		〈実技〉 ・ ミニトマト、ピーマン等の定植 ・ 刈払機の使い方
3	6月4日(火)	〈座学〉 ・ 病害虫の防除方法 ・ 農薬の使用方法
		〈実技〉 ・ さつまいも定植 ・ ミニトマトの栽培管理
4	7月9日(火)	〈実技〉 ・ ミニトマト、ブッキーニ等の栽培管理
5	7月30日(火)	〈座学〉 ・ カボチャの栽培管理方法
		〈実技〉 ・ カボチャ・ブッキーニの定植
6	8月20日(火)	〈座学〉 ・ 大根、さつまいも等の栽培管理方法
		〈実技〉 ・ 秋じゃがいもの定植 ・ カボチャの整枝

7	9月10日（火）	〈実技〉 ・タマネギの播種 ・大根、小松菜等の播種、定植
8	10月22日（火）	〈座学〉 ・土づくりの基礎（肥料体系、有機農業）
		〈実技〉 ・タマネギの定植 ・堆肥の散布
9	11月26日（火）	〈座学〉 ・農業機械の点検、管理 ・次年の作付け計画等
10	2月4日（火）	〈座学〉 ・育苗 ・農産物の販売
		〈実技〉 ・冬期間のビニールハウスを利用した葉物野菜の栽培管理（葉物野菜の収穫）



実施主体：佐久市営農支援センター

住 所：佐久市中込3056

電 話：0267-62-3203

F A X：0267-62-2269